

# Higashikawa

*Partnership Hand Book*

新しい未来を共につくりだす

東川オフィシャルパートナー制度  
企業版ふるさと納税



## 写真の町宣言

「自然」と「人」、「人」と「文化」、「人」と「人」  
それぞれの出会いの中に感動が生まれます。  
そのとき、それぞれの迫間に風のようにカメラがあるなら、  
人は、その出会いを永遠に手中にし、  
幾多の人々に感動を与え、分かちあうことができるのです。

そして、「出会い」と「写真」が結実するとき、  
人間を謳い、自然を讃える感動の物語がはじまり、  
誰もが、言葉を超越した詩人やコミュニケーションの名手に生まれかわるのです。

東川町に住むわたくしたちは、その素晴らしい感動をかたちづくるために  
四季折々に別世界を創造し植物や動物たちが息づく、雄大な自然環境と、  
風光明媚な景観を未来永劫に保ち、先人たちから受け継ぎ、  
共に培った、美しい風土と、豊かな心をさらに育み、  
この恵まれた大地に、世界の人々に開かれた町、  
心のこもった“写真映りのよい”町の創造をめざします。

そして、今、ここに、世界に向け、東川町「写真の町」誕生を宣言します。

1985年6月1日

## 「共に」宣言

1985年 私たちは「写真の町」を宣言しました  
「人」「自然」「文化」それぞれの出会いを大切に  
写真映りの良い町づくりを目指した理想は  
30年にわたる「写真文化」の取り組みを通じて  
世界の写真に出逢い 人々と触れ合い 笑顔が溢れる  
「写真文化首都」へと進化 発展してきました  
今 私たちが この美しいまち 東川で心豊かに暮らせるのは  
先人をはじめ 世界中の人々から注がれた愛情とともに  
この郷土を大切に守り育ててきたからに他ありません  
日本にとって明治 昭和は 大きな争いの時代でもありました  
私たちは 人々が美しく心寄せ合う中で文化が生まれ育つ 令和の時代が  
平成に続き 平和な時代であることを心より願ってやみません  
世界では 環境 紛争 貧困など 多くの課題が山積しています  
国籍や民族の異なる人々が 互いの違いを認め合い  
対等な関係を築きながら生きていくために  
互いの文化を理解し補完する 「共生社会」  
互いの人権を尊重し融和する 「共和社会」  
互いの生活を向上し繁栄する 「共栄社会」  
の実現に向けて 私たちは これからも努力していきます  
2020年 世界に向けて写真文化を発信する「写真文化首都」から  
ここに「共生・共和・共栄のまちづくり」を進めることを宣言します

2020年12月10日

1985年と2020年の二つの宣言。それは、  
共に歩む、これからも共に進むことの約束。



## Partnership with Higashikawa

北海道のほぼ真ん中に位置する東川町。大雪山国立公園の一部を有し、豊かな景色をもつこの町は、1985年に「写真の町宣言」を発表しました。写真というメディアを通じて、「自然」と「文化」、そして「人」との出会いやつながりの中に感動が生まれることを信じ、私たちは35年以上、まちづくりを進めてきました。

いつしか「写真の町宣言」は、「写真」だけに留まらず、自然との関係性や文化の創造、人と人とのつながりが大切であるという意識を、この町に根付かせてくれました。地域の人たちの意識は地域価値を高め、「人が人を呼び人口が増加し続ける町」として注目を集めています。さらに2020年に「共に宣言」を発表。新型コロナウイルスの感染拡大で不透明な未来に対して、“文化のまちづくり”を基盤として、多様な方々と協働・共創しながら新しい未来をつくり出していきます。

この冊子では、「共に宣言」の具体的なアクションとして、東川町独自の「東川オフィシャルパートナー制度」と、地方創生のひとつの形として注目を集める「企業版ふるさと納税」を紹介しています。これらの制度を活用しながら、豊かで持続可能性のある社会の創造を共に目指しましょう。



未来を育む社会システムの共創を目指す  
パートナーシップ制度

## 東川オフィシャルパートナー制度

### INDEX

東川町とつながる  
2つの制度

寄附を通じて地域及び社会課題の解決に貢献  
税制上の優遇措置が受けられる

## 企業版ふるさと納税



# 東川オフィシャル パートナー制度

## 誰もが豊かに暮らす日本の未来のために

この町や日本の未来、そして人々のライフスタイルを育むことを目的とし、2019年よりスタートした東川オフィシャルパートナー制度。この制度は、東川町とつながりのある企業とパートナーシップ関係を構築し、地方や日本、世界の未来を育む社会価値の共創を目指すものです。

導入から3年が経過し、2022年4月現在27社と締結。各社と協議を進め、それぞれの企業や団体が持っている人材・技術・ノウハウなどのリソースを、東川町のまちづくりで最大限活用させていただきながら、次々に新しい事業が生み出されています。

今後も、オフィシャルパートナー企業との事業連携や、ひがしかわ株主制度（ふるさと納税制度）の活用などを推進していきます。



オフィシャルパートナー  
制度説明動画

本制度は、慶應義塾大学SFC研究所 社会イノベーション・ラボと共同研究開発してきたものです。

## Support

### オフィシャルパートナーと東川町が 連携する目的（実践例より）

#### Coaction

#### 1 福利厚生充実

東川町内のテレワーク施設、研修施設の貸し出しや優待利用などによって、企業のリモートワークを推進しています。自然豊かな環境のなかで、社員のみなさまに心地よく働いていただける環境を提供します。

#### Coaction

#### 2 働き方改革の実践

町内に企業向けの貸しオフィスを建設し、企業の地方拠点としての受け入れをしています。都市部に依存しない働き方を検討、実践できる場所として、町を活用いただくことが可能です。

#### Coaction

#### 3 地域課題解決を図る新規事業・新規商品開発

東川町が抱えている課題を、オフィシャルパートナー企業のスキル・ノウハウを活かしながら、共に解決を目指します。地域課題を解決するための実践の場として、東川町を活用いただくことができます。

#### Coaction

#### 4 従業員の意識改革・課題解決型の人材育成

三大都市圏に所在する企業等の社員を、東川町に派遣できる「地域活性化起業人」として積極的に受け入れ、町内課題解決の実務に共に取り組むことで、地域に根差した提案ができる人材を育成できます。

#### Coaction

#### 5 企業活動における社会価値の創出

企業におけるSDGsやCSR、ESGなどの取り組みを共に実施します。日本や世界の課題を解決するための活動を、資源や自然が豊かな東川町を舞台に展開いただくことができます。

パートナー企業・団体のみなさまとの実践により  
新しい未来が芽生えています



# Cooperation

## 東川町とオフィシャルパートナー それぞれの強みを生かし、協働で取り組んだ 事例をご紹介します

### 写真文化首都「写真の町」 関連事業へのサポート

〈キヤノンマーケティングジャパン株式会社〉



1994年に始まった全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園」に対して、カメラの貸し出しなどのサポートの他、町内で実施される各種写真イベントでの連携をしています。高校生の創造性や感受性の育成と活動の向上を、写真を通して共につくり上げています。

### 東川米を使用した 米菓の共同開発

〈岩塚製菓株式会社〉



岩塚製菓が発売する「ふわっと雪どけ煎餅」をJAひがしかわと共同で開発。東川米を100%使用し、アレルゲン28品目・化学調味料不使用。幅広い年代が安心して食べられます。パッケージデザインは東川町内のデザイナーが担当、岩塚製菓北海道工場で製造しました。

### 健康な町づくりに向けた自発的な 健康促進プログラムの提供

〈株式会社R-body〉



総務省が推進する「地域活性化企業人交流プログラム」を活用し、コンディショニングコーチ2名をR-bodyより東川町に派遣。町営運動施設の環境の整備や住民向けコンディショニング指導などを実施。「健康の町 東川町」の実現に向けて相互協力しています。

### 地域の文化価値を高める CSV事業

〈クロスプラス株式会社〉



旭川に在る、アイヌ資料館としては日本最古の「川村カ子トアイヌ記念館」監修のもと、アイヌ文様入りのオリジナルエコバックを商品化。町内事業社のくりや株式会社がプロデュースし、婦人服アパレルメーカーのクロスプラスが制作しました。

### 留学生と多文化共生のための ワークショップを実施

〈株式会社セブン銀行〉

日本語学校の留学生と、セブン銀行の職員が人材交流を目的とした多文化共生の取り組みを行いました。「日本の良いところ」と「日本の課題」等について話し合うことで、日本での暮らしや働く不安や悩みを解決するためのワークショップを実施しました。

### 新しい働き方である ワーケーションの提案

〈日本航空株式会社〉

JALの北海道ふるさとアンバサダー2名が東川町で“暮らすように”旅をし、JALホームページの地域紹介Webサイト「OnTrip JAL」にレポートを掲載。カフェやレストラン、雑貨店や、スキー場、酒蔵、家具店などを巡り、東川町の魅力を紹介しています。

### 社内にリゾートワークを 根付かせるための協働

〈株式会社ヌーラボ〉

社員が家族と共にリゾート滞在しながらリモート就業ができる研修制度を町内で実施。ヌーラボ社員は東川町民向けに特別授業を行うことが制度利用の条件になっており、ITリテラシーの向上やダイバーシティなどをテーマにした教養の授業を実施しています。

### 日本語学校との連携による 地域貢献活動の実践

〈サツドラホールディングス株式会社〉

北海道を中心に展開するドラッグストアチェーン、サツドラ(サッポロドラッグストア)を統括するサツドラHDと共に、まちづくりや地域の振興、地域振興を担う人材育成などについての協働を目指しています。第1弾として留学生の映像制作を手掛けました。

### 留学生や町民に対しての 就職・就業支援

〈株式会社ツナグ・ソリューションズ〉

総務省の「地域活性化企業人交流プログラム」を活用し、社員2名を町に派遣。日本語学校の留学生へ日本国内での就職支援及び就労サポートの拡充に協力。採用や求人等のノウハウ等を活用し、町民の職業能力の開発・向上と雇用機会の創出を目指しています。

### 魅力発見や観光誘致を目指す フォトコンテスト開催

〈東京カメラ部株式会社〉

ひがしかわ観光協会と連携し、フォトコンテスト「ひがしかわ 美しい水と田園風景 フォトコンテスト」を開催。魅力発見と観光誘致などを目指しながら、東川町国際写真フェスティバルの会場での展示や、SNSでのライブ配信などにも取り組みました。

### 自治体が取組むSDGsとの 連携による媒体価値の向上

〈株式会社WHERE〉

地域経済活性化カンファレンスや地域共創コミュニティメディアを運営するWHERE。地域プロデュース事業で培ったノウハウを生かし、東川町が推進するSDGsの取り組みを可視化し、認知拡大と企業連携のマッチングをはかっています。

### — パートナー企業同士の交流会 —

### オフィシャルパートナー フェスの実施

東川町の現状、今後の展開などの情報共有や、パートナー企業同士の交流を目的とした「東川町オフィシャルパートナーフェス」の開催を企画。アフターコロナに向けて、持続的・地域社会をオフィシャルパートナーと共に創るための交流の場を開催しています。



## オフィシャルパートナー企業

多種多様な業界の企業の皆様に東川町のまちづくりにご賛同いただき、前ページでご紹介した以外にも、それぞれの企業の強みを生かした様々な取り組みが行われています。ここでは、未来を共に歩む、オフィシャルパートナー企業の皆様をご紹介します。

(2022年11月時点)



## 申し込み方法

### パートナー加入までの流れ

#### 1 問い合わせ

東川町までメール又はお電話にてお問い合わせください。本町担当者からパートナー協定の詳細について連絡させていただきます。

#### 東川町 東川スタイル課

〒071-1426 北海道上川郡東川町北町1丁目1番2号

TEL : 0166-82-2111

E-Mail : brand@town.higashikawa.lg.jp

#### 2 担当者と打ち合わせ

本町担当者からパートナー協定の詳細について連絡させていただきます。

#### 3 パートナー審査

必要に応じて、東川町長の面談や担当者との打ち合わせを調整させていただきます。

#### 4 パートナー協定

本町から貴社へお伺いするか又は貴社にご来町いただき調印式を行い、協定書に基づく協定締結を行います。



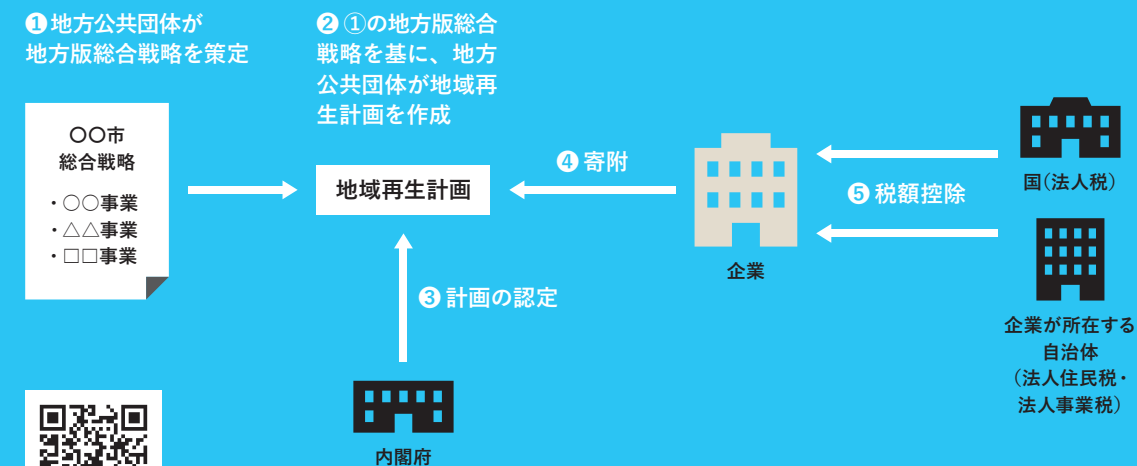
# 企業版 ふるさと納税

## 寄附を通じて、地域及び社会課題の 解決に積極的に取り組む制度

企業版ふるさと納税は、正式名称を「地方創生応援税制」といいます。内閣府から認定を受けた地方公共団体の事業やプロジェクトに対して、企業が応援したい取り組みを選び、寄附することによって、国や自治体から税制上の優遇措置を受けられる仕組みです。

また税制上のメリットだけでなく、「SDGs」の達成など社会貢献として企業PRになるほか、地方公共団体との新たなパートナーシップの構築、そして地域資源を生かした新事業展開などのメリットもあります。

令和2年度に税制改正があり、優遇措置が大幅に拡充されました。この特別措置は令和6年度まで延長されることになり、活用する企業が増えています。東川町の取り組みを応援して下さる皆様をお待ちしています。



企業版ふるさと納税  
説明動画

## Benefits

### 企業にとってのメリット

**社会貢献**  
企業としてのPR効果  
(SDGsの達成など)



**パートナーシップ  
の構築**  
地方公共団体との  
新たなつながり

**新事業展開**  
地域資源などを  
生かした取り組み

### 企業における課税の特例（税額控除）

↓  
寄附額の最大9割が軽減されます

改正前（令和2年3月31日まで）

|                        |               |           |      |
|------------------------|---------------|-----------|------|
| 損金算入による軽減効果※<br>国税+地方税 | 法人住民税+<br>法人税 | 法人<br>事業税 | 企業負担 |
| 約3割                    | 約2割           | 約1割       | 約4割  |

改正後

|                        |               |         |      |
|------------------------|---------------|---------|------|
| 損金算入による軽減効果※<br>国税+地方税 | ① 法人住民税+② 法人税 | ③ 法人事業税 | 企業負担 |
| 約3割                    | 約4割           | 約2割     | 約1割  |

※ 企業が地方公共団体に寄附した場合は、その全額が損金算入される為、寄附額の約3割（法人実効税率）相当額の税の軽減効果があります。

〈科目ごとの特例措置〉

- ① 法人住民税 寄附額の4割を税金控除（法人住民税・法人税割額の20%が上限）
- ② 法人税 法人住民税で4割に達しない場合、その残額を税額控除。ただし、寄附額の1割を限度（法人税額の5%が上限）
- ③ 法人事業税 寄附額の2割を税金控除（法人事業税額の20%が上限）

資本金の金額や所得の金額に応じて控除額が変動しますので、  
詳しくは会計士や税理士にお尋ねください。



# Project

寄附の対象となるプロジェクト・事業をご紹介します



## 写真文化首都「写真の町」プロジェクト

写真文化を通じて潤いと活力のあるまちづくりに取り組み、世界中の写真と出逢い、世界の人々とふれあい、笑顔に溢れる「写真文化首都」の創造を目指します。



## 日本の未来を育むプロジェクト

新しい命を育み成長を見守る役としての保育士や、高齢化社会の暮らしを支える介護福祉士をはじめとした、日本に不足している人材の育成を推進します。



## 地域資源活用プロジェクト

地域色を活かした家具・木工製品の生産や根付きはじめたワインづくり、文化資源の活用など、人と自然が関わり合うことで生まれる交流を促進します。



## 自然と環境を守るプロジェクト

大雪山系の雪解け水を地下水として活用し、おいしい水が暮らしのそばにある東川町。貴重な水資源と環境を守る森づくりの重要性を発信し整備を行います。



## 写真文化首都「写真の町」推進事業



東川町は1985年に「写真の町」を宣言し、写真映りのよい田園風景の保全、豊かな人づくりや景観づくりを進めてきました。宣言から30年を迎えた2014年には「写真文化首都宣言」を行い、文化によるまちづくりをより一層推進。全国の写真好き高校生たちのための「写真甲子園」、国際写真賞の東川賞授与を中心とした「東川町フォトフェスタ」をはじめとする写真の町関連事業や写真のアーカイブスなど、写真文化首都として創造的な取り組みを行います。



## 地方創生人材育成サイクル構築事業

子どもたちが様々な物事に興味や知識を得る機会を創出し、自立した人材育成を図るための環境整備を行う人材育成環境等整備事業や、子どもたちの国際感覚を磨くための英語教育の充実化、東川町で学び育ち大学等に進学する学生に対して奨学助成等も実施します。郷土に対する思い入れを深めるほか、広く眼を向けられる自立した人材育成を目指し、自ら課題を把握して調べる習慣を身につけられる環境を整備する目的において本事業を推進しています。



## 日本福祉人材育成事業／海外青年育成事業



介護福祉士資格は、介護に係る一定の知識や技能を習得していることを証明する唯一の国家資格です。介護福祉士や保育士という大切な役割を担う方々をサポートするため、介護福祉士の奨学金等をはじめとした人材育成支援を図っています。また、日本で学ぶことを夢見る海外青年を応援し、日本と海外をつなぐ人材育成支援も行います。「介護福祉士」と「海外青年」といった日本の未来を育む人材の育成事業に充てられます。





## 竹内智香選手と協働！ スノーボードキッズ育成事業



大雪山国立公園の最高峰・旭岳の良質な雪を身近に感じるだけでなく、2014年ソチオリンピック銀メダリストの竹内智香選手がスノーボードをはじめたまちという背景もあり、人材育成や環境整備、スノーボード人口拡大のための子どもたちを対象とした普及活動に取り組んでいます。今後数十年持続可能な育成環境を創ることを目指し、竹内智香選手と協働しながら恵まれた自然のなかで心の豊かさと挑戦する楽しさを育み、子どもたちの夢をサポートします。



## 「日本の心」継承 文化芸術振興事業

元文化庁長官である近藤誠一氏の視点を通して、各界で活躍する人々の書を発行することにより、国内外の文化芸術の振興を図ることを目的とし、広く文化芸術を後世に伝えます。また、「気候温暖化、パンデミック、格差の拡大」等の世界が一体となって立ち向かわなくてはならない沢山の課題が立ちふさがる今、全国の高校生に配布することによって「日本（人）の心と叡智」を学び、世界をよりよい方向へ導く志を育てていただくことを目的とします。



## 農業を守り育てる事業



道内屈指の米どころである東川町の農業を守り育てるため、「東川米」の大規模乾燥調製施設の整備などを進め、日本の食料自給率確保に貢献する事業等を実施します。



## 東川発デザインミュージアム建設事業



日本五大家具産地と呼ばれる「旭川家具」。東川町は旭川市に隣接しており、「旭川家具」の約3割はまちの木工事業所によって生産されています。家具の産地であるこの地域に多くの家具・クラフト職人が集い、その匠たちが技を競って家具や木工製品を作り続けているのです。このような洗練された木工製品・クラフト、世界的に歴史・芸術価値が高い「織田コレクション」を中核に「家具デザイン文化」を世界へ発信するデザインミュージアムの実現を目指します。



## ひがしかわ起業化支援・にぎわい創出魅力発信事業

他地域で経験を積んだ者等の地域回帰の促進、地域回帰による人の流れを地域内経済の拡大につなげ地域活性化を図るべく、東川町の起業化支援を行います。また、東川町中心市街地の魅力ある景観創出のための美しい風景を守り育てる整備も実施。東川町の魅力を広く発信するため、にぎわい創出魅力発信事業を行います。



## 映画『カムイのうた』制作事業



アイヌ民族の人々は明治以降の北海道開拓に大いに貢献しましたが、差別・迫害と戦い続けて来ました。アイヌの血を引く知里幸恵さんは失われつつあったアイヌの伝統文化（口承叙事詩「ユカラ」）を日本語に訳した「アイヌ神謡集」を書き上げ、わずか19歳で天逝。彼女の業績はアイヌ民族の人々に大きな自信と誇りを与えました。映画『カムイのうた』は、彼女の生きた姿を元に、アイヌ民族の生き様や伝統・文化を、雄大な北海道の自然の中に描き出す物語です。アイヌ文化を広く国内外へ紹介するため、オール北海道で制作します。





## 滞在型交流施設整備事業



リモートワークという言葉が定着し実際に体験する人も増えたなか、東川町では、都市住民やさまざまな企業との交流と連携により相互に行き来しながら仕事とプライベートを過ごしたり、移住のきっかけとなる出会いを提供するための滞在型交流施設の整備を推進しています。滞在することで見えてくるまちの魅力や季節ごとの過ごし方を知ってもらい、関係人口を拡大、継続していく取り組みです。町内の木工業者をはじめとする一次産業との連携も特長です。



## 天人峡温泉環境保全（レクリエーションの森復活事業）事業

大雪山国立公園内には、国が指定したレクリエーションの森・天人峡風致探勝林があり、北海道指定文化財の名瀑「羽衣の滝」や、柱状節理の名所の数々があります。大雪山国立公園の主要な観光コースとして、また、秘境の中に湯煙をあげる一大温泉郷として知られてきた天人峡ですが、経済の不振やコロナ禍により廃墟として放置されている施設もあります。それらマイナスの資産をプラスに変え、天人峡温泉の環境保全（レクリエーションの森復活）を目指します。



## 社会の豊かさを問い直す学び舎「人生の学校」設立事業



東川町は、2020年以来、町内で大人向けの教育プログラム提供を行う「School for Life Compath」（以後「Compath」と表記）と連携。進学や転職・リタイアなどのタイミングで、共同生活や様々な種類の授業に参加し、自分と社会を捉え直す、生涯学習の機会を作っています。現在Compathは、町内施設の一部を間借りしながらプログラム提供を行っていますが、より創造性を発揮できる教育環境を整備するため、2024年春の校舎の設立を目指しています。

## 申し込み方法

### 寄附の流れ

#### 1 寄附申込書の提出

「寄附申込書」に記入し、  
下記担当までご提出ください。  
※お問い合わせも下記にご連絡ください



こちらから  
ダウンロード

東川町 東川スタイル課

〒071-1426 北海道上川郡東川町北町1丁目1番2号

TEL : 0166-82-2111

E-Mail : brand@town.higashikawa.lg.jp

#### 2 寄附金の納付

「寄附申込書」の受領後、納付に関するお知らせをします。

#### 3 受領証の交付

入金を確認次第、「受領証」を送付します。

#### 4 税制措置の申請

「受領証」とともに税の申告をお願いします。

〈制度を活用する上での留意事項〉

1. 本制度は、企業の本社（地方税法における主たる事務所又は事業所）所在地以外の地方公共団体に対する寄附が対象となります。
2. 寄附額は1回当たり10万円以上が対象となります。
3. 寄附を行うことの代償として、経済的利益供与は禁止されています。
4. 寄附金額は確定した事業費の範囲内までとなります。

## 1985 ● 写真の町宣言 写真の町東川賞 東川町国際写真フェスティバル

写真映りのよい景観に恵まれたまちとして「写真文化」に基盤を置いた写真の町宣言を発表。また毎年優れた作品を残した作家に授与する、自治体が主催する初の写真賞「写真の町東川賞」を設立。さらに写真文化を通して世界に開かれたまちをつくるために、東川賞の授賞式や受賞展示などを実施する東川町国際写真フェスティバルもスタートした。



東川町国際写真フェスティバル

## 1994 ● 写真甲子園

全国の高校写真部から予選を勝ち抜いた写真部が東川町で決勝を戦う全国高等学校写真選手権大会（写真甲子園）が始まり、町民と全国の高校生との交流が生まれる。



## 2005 ● 新・婚姻届

婚姻届の書類を東川らしいデザインの台紙に添えることで結婚の記念品とし、また役場の窓口に提出した瞬間の写真を撮影してプレゼントする試みを開始した。その後、新・出生届もスタート。



## 2006 ● 君の椅子

東川町で生まれた赤ちゃんに、地域の職人が制作した椅子をプレゼントする「君の椅子」事業が始まり、子どもの誕生を心から歓迎する気持ちを表わした。



## 2008 ● ひがしかわ株主制度 環境省の平成の名水百選

東川町らしい「ふるさと納税」の形を検討し、寄附をしてもらい商品进行贈るだけでなく、継続的な関係を作るために考案した独自の「ふるさと納税」ひがしかわ株主制度がスタート。また東川町役場に写真の町課が創設された。さらに、東川町が有する旭岳の天然水が、環境省の平成の名水百選に選ばれるなど、東川町にとって節目の年となった。



大雪旭岳源水公園

## 2014 ● 写真文化首都宣言

写真の町宣言から30年の節目に、写真文化の発信拠点としての役割を今まで以上に担おうという決意表明として、写真文化首都宣言を発表。



## 2015 ● 町立東川日本語学校設立 高校生国際交流写真フェスティバル

全国初の町立東川日本語学校を開設し、中長期で留学生を受け入れられる体制を整えた。また高校生国際交流写真フェスティバルが始まり、2019年には世界21の国と地域が参加するイベントとなった。



高校生国際交流写真フェスティバル

## 2016 ● 東川町複合交流センターせんとぴゅあ

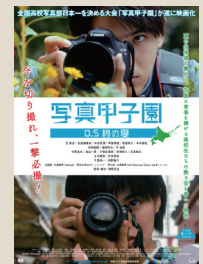
東川町の「写真文化」、「家具デザイン文化」、「大雪山文化」の発信拠点となるセンターを設立。図書貸出機能があり、また町民同士や町民と町外、留学生などとの交流の場にもなっている。



せんとぴゅあII

## 2017 ● 織田コレクションの公有化 映画『写真甲子園 0.5秒の夏』

「家具の町」でもある東川町。椅子研究家の織田憲嗣氏が長年、収集、研究してきた20世紀の優れたデザインの家具などの公有化を決定。映画『写真甲子園 0.5秒の夏』の公開もあり、話題となった。



映画  
『写真甲子園  
0.5秒の夏』



## 2019 ● ゆめぴりかコンテスト2019 最高金賞受賞

旭岳のおいしい天然水を使って、独自の厳しい品質基準のもと作られている「東川米ゆめぴりか」が、「ゆめぴりかコンテスト2019」にて最高金賞を受賞した。



## 2020 ● 東川町文化ギャラリーリニューアル 東川町公設酒蔵「三千櫻酒造」誕生 「共に」宣言

東川町文化ギャラリーが4つの展示室、撮影スタジオ、東川の家具を備えたラウンジを有する空間にリニューアル。また、岐阜県にあった「三千櫻酒造」が東川町に移転し、公設民営酒蔵としてスタート。そして新型コロナウイルスが猛威を振るったこの年、「共に」宣言を発表し、世界の人々と共に平和な世界の実現を目指すことを誓った。



三千櫻酒造「彗星」「きたしずく」  
純米大吟醸酒

## 2021 ● 椅子の日制定／「椅子の日」宣言 「隈研吾&東川町」KAGUデザインコンペ

日本五大家具のひとつとして有名な旭川家具の約30%を生産している東川町。4月14日を椅子の日に制定、「椅子の日」宣言を発表。建築家・隈研吾氏との取り組みもスタートした。



「隈研吾&東川町」  
KAGUデザインコンペ

## 2022 ● サテライトオフィス「KAGUの家」 ゼロカーボンに取り組む 適疎な町宣言

隈研吾氏が設計した東川町サテライトオフィス「KAGUの家」が完成。東川町の産業活性化や新産業創出につなげるための施設として、東川町の関係人口拡大を図る。また、2050年の二酸化炭素排出量実質ゼロを目指すために、「ゼロカーボンに取り組む 適疎な町」を宣言。脱炭素の目標を設定し、今後、地域の強みを生かした計画を策定する。



「KAGUの家」

写真文化首都「写真の町」東川町  
東川パートナーシップハンドブック  
東川町官民連携の手引き

〒071-1492  
北海道上川郡東川町東町1丁目16番1号  
TEL：0166-82-2111 FAX：0166-82-3644  
発行：東川町

